

公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団

2018 年度（前期）指定公募
「市民の集い開催への助成」
完了報告書

テーマ 「看取」での経験を語る会

申請者：川島 直樹

所属機関：医療法人社団泰平会 城西神経内科クリニック

開催日：平成 30 年 10 月 13 日

提出年月日：平成 31 年 1 月 18 日

【実施概要】

テーマ

「看取り」での経験を語る会

申請者名

医療法人社団泰平会 城西神経内科クリニック 事務長 川島直樹

開催日時：平成 30 年 10 月 13 日（土） 14 時～16 時 30 分

開催場所：静岡労政会館 大ホール

主催：城西神経内科クリニック

【プログラム】

第1部 自宅でのお看取りとは ～患者様ご家族様による語り～

第2部 グループワーク ～最期まで自宅で過ごすとは～

第3部 意見交換会

【来場者概要】

総来場者数：70 名

訪問看護師、施設職員、事務、介護職員、一般市民の方等様々な職種が市内・外より集まった。

【実施報告および感想】

第 1 部では、実際に当クリニックにて在宅医療を提供させていただいた患者様のご家族様にご協力をいただき、訪問診療が開始になった時をスタートとして、ご逝去されるまでの 3 か月間を 1 ヶ月毎に区切り、多職種（患者様ご家族様、医師、訪問看護師、訪問リハビリ、ケアマネジャー）の方それぞれがそれぞれの場面でどのような気持であったか、また必要であったことは何か等をディスカッション形式で進めた。

患者様はがん末期であり、実際に在宅でお過ごしになられたのは 3 か月であった。

改めて振り返りながら、それぞれの職種間で新たな発見もあり、非常に有意義なものとなった。

第 2 部では、集まった多職種の方と実際にあったケースを基にグループワークを行った。

5 名～6 名の多職種の集まりをテーブル毎に作り、病院、患者様、在宅医療、家族がそれぞ

れ何を求めているのか考えた。

自分とは違う職種が、在宅に帰る際に何を必要としているのか、どういう気持ちでいるのかをじっくり考えるよい機会となった。

講演会終了後、医師にも参加していただき意見交換会を行った。

総じて多職種同士が顔の見える関係を作り、お互いがお互いを理解することができた良い会となったように感じる。

第1部の様子。左より 患者様ご家族、主治医、訪問看護、訪問リハビリ、ケアマネジャー



第2部の様子。



公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成による

以上

自宅での看取りを語る会

～最期まで自宅で過ごすとは～

内容

城西クリニック日野院長と静岡赤十字病院外科部長、城西クリニック非常勤医の白石先生にご参加いただき、患者様ご家族様の体験をもとに最期まで自宅で過ごす事について考えたいと思います。

日程

2018年 10月13日（土） 参加費：無料

時間

14:00～16:30 受付開始13:30

14:00～15:00

自宅でのお看取りとは

～患者様ご家族様による語り～

15:00～16:00

グループワーク

～最後まで自宅で過ごすとは～

※16:00～16:30 意見交換会



会場

静岡労政会館 6階 大ホール
静岡市葵区黒金町5-1

お問い合わせ(担当者)：塚原

FAX

054-273-7878 に申込書をお送りください。

TEL

054-273-7770 (城西神経内科クリニック)

住所

〒420-0061 静岡市葵区新富町5-7-6

主催

城西神経内科クリニック

(助成：公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団)

FAX送付先 054-273-7878 (城西神経内科クリニック宛て)

城西神経内科クリニック 地域勉強会 参加申込書 (定員になり次第終了)

ご所属 :

TEL :

FAX :

連絡担当者
お名前 :

氏名(ふりがな)	職種



日野佑介先生

国立京都大学
医学部卒業

緩和ケア医



白石好先生

慶応義塾大学
医学部卒業

緩和ケア医